

修道板創立百周年記念誌

修道板創立百周年記念誌

修

道

京都市  
東山図書館  
蔵書

18022013

376 シ

畠の中で兵隊ごっこなどして楽しい毎日であったが、そのうちにだんだん食糧事情が悪くなりだし、いもの葉がほとんどで、米つぶはかぞえる程にしか入っていないような「ぞうすい」ばかりの毎日が続いた。学校へ持っていく弁当も、それをたてにしてこんこんとたたくと、中の御飯が三分の一程にずり落ちてしまふ程しか入っておらず、それを先生の目を盗んで、二時間目あたりからこっそりとつまみぐいし、昼の食事の時には、残ったほんの一つまみほどの御飯を、土地の子供達の弁当箱より盛り上った白い御飯を横目で見ながらぼつぼつと食べるといった状態で、名もない木の実などはもちろん、道端のいたどりなんかも皆でとり合って食べたものであった。だから土地の子供達と仲良くなると、エンピツやノートと交換したりして、さつまいもや、かき、くり等をよくもらい、それが楽しみの一つであった。

朝は前の小川で顔と口を軽くすすぎ、ぞうすいを流し込んで、皆並んで平屋小学校へ通った。学校まではそんなに遠くなく、役場の横の二十段程の石段をのぼると運動場へ出た。授業はもちろん土地の子供達といっしょに受け、体力的にはだんぜん我々が劣っていたが、成績の方はこちらから行った者の方が平均良かったようだ。

放課後は主に畠仕事で、かなり遠い所まですきっぱらをかかえて、こえかつぎなんかもやって甘藷など作り、苦心さんたんして作った甘藷が大部分水いもで食べられなかった事もあった。その他の作業として、松の根っこから油をとり出し、それを燃料にするとかで、松の根っこ引きの仕事もあった。

電燈は前の由良川のたもとに、小屋が立っており、その中に発電機があり、毎日夕方になると、村の係の人が来てモーターをまわすと、ポーと徐々に電燈がついてくるといった状態

で、大雨や風で係の人が来ない場合は一晩中、まっ暗やみの時もしばしばあった。

夜の自由時間は大切な仕事をやった。それは「のみ」と「しらみ」とりである。とにかくすごくたくさんおり、シャツをぬげばパラパラとのみが飛びはねるのを皆でつぶしてまわるのであって、しらみはふとんの上を一行になつて歩いてゐるのを、端から順につぶしていく、かゆいと云うのを通りこして、かえってそれが一つの楽しみようになっていた。

そんな生活で一番うれしかったのは親の面会であった。たしか二回あったが、大豆のいったのや、米のいったのを持って来てくれた。

本土襲撃がはげしくなるにつれ、夜、前の山の上の空がまるで夕やけのように赤く染まりそれが戦災による火災のために染まるのだとわかり、先生方から「あの方向は大阪方面です京都はもっとこちらの暗い方向ですから安心なさい。」と聞かされても、心配でいつまでも庭へ出て空を眺めていたこともあった。

終戦の時は二三の先生が泣いておられたが、我々には子供の事としてその意味が良くわからず、別に気持の変化はなかった。

そんな苦しい毎日であったが、何ぶん子供の事として、それほどつらいとも思わず、気楽で楽しくやっていたようで、今となれば、本当になつかしく、時として当時を思い出している。

### 爆弾投下

昭和二十年一月十六日午後十一時二十分の空襲により、学校の隣接地に爆弾が投下され、校舎東北隅の民家に火災が発生した。類焼はまぬがれたが、講堂・北校舎（東から階上階下とも

三教室）・東校舎（階上三教室）の窓ガラスは全部、爆風のために飛散し、講堂の屋根は破れて見る影もない有様となった。その他柱が爆風のために破損したものも多く、特にこの空襲によって本校児童九名の尊い生命が失われた。このことは修道校百年の歴史の中で最も悲惨なできごとであった。ここに謹んでご冥福をお祈りしたいと思う。

校舎の復旧は京都市営繕課の手により、昭和二十一年二月に工事を終了した。

ああ／ 八月十五日

昭和二十年八月十五日の正午であった。君が代の奏楽につづいて、天皇の重大放送が流れ始めた。天皇の名において敗戦が告げられたのであった。一億国民はただ茫然自失、その日内閣は総辞職して、直ちに最初の皇族内閣が成立、巨大な陸海軍もつぎつぎに武装を解除せられ、日本国民は精神的にも物質的にも凡てのよりどころを失い、新日本建設のきびしい道に立たされた。

### ○時代（戦後）のあらまし

終戦となって八月二十日から灯火管制が解除され、夜あかあかと電灯がともった時、私たちは、戦争からまぬがれたよろこびを実感した。しかしこれからの生活についての未知の不安は深刻につきまとはなれなかった。

戦後すでに二十四年の歳月を経たが、この間の教育は激しくうつりかわった。そのうつりかわった戦後の教育を大きく三つの時期に分けて考えることができる。

第一期 「占領下の教育」 (昭和二十年～二十四年)

この時期に教育は、あらゆる分野で百八十度の転換がおこなわれた。

六・三制の発足 昭和二十二年

日教組の成立 昭和二十二年

検定教科書制度発足 昭和二十四年

第二期 「戦後教育の検討期」

第三期 「教育体制の新しい展開期」

新教育委員会法の公布 昭和三十一年

道徳時間の特設 昭和三十三年

昭和四十三年には教育課程が改訂され、四十三年七月には新学習指導要領が公示され、昭和四十六年から全面实施されることになっている。

六三制発足——社会科出現

戦後の新しい教育の基本的な方向を指示したものは、昭和二十一年に日本にやって来た第一次米國教育使節団の報告書であった。報告書はその中で、日本の民主主義教育の方針として、教育の中央統制をやめること、地方住民が教育行政に参加すること、男女共学の六・三・三制の実施、公民の育成、個性の尊重などの点を指示している。文部省はこの報告書に基づいて、「新教育指針」を出した。

即ち、昭和二十一年十一月三日に公布された新憲法の精神に基づき、昭和二十二年法律第二

一九四四	一九四三	一九四二	一九四一	一九四〇	一九三九	一九三八
一九	一八	一七	一六	一五	一四	一三
大槻喜一		福井尚一			水山光高	
全校児童（八七九名）に学校給食を実施する	アツツ島玉砕 修道商業青年学校を一橋商業青年学校へ修道実務女学校を弥栄実務女学校へそれぞれ合併する	米機東京初空襲 大東亜省設置 学童疎開始まる	おぐら池干拓竣工する 東条内閣成立 太平洋戦争（十二月八日）	皇紀二千六百年記念式典 文部省修学旅行を大中制限 生活必需品切符制採用 日独伊軍事同盟成立	第二次世界大戦おこる 二条城京都市に移管される 第二期建築として東校舎北校舎南校舎倉庫校門の工事完成する 修道商業青年学校を併置する	国家総動員法成立 初の市立保健所開所

一九四四	一九四四	一九四四	一九四四	一九四四	一九四四
一九四五	一九四五	一九四五	一九四五	一九四五	一九四五
一九四六	一九四六	一九四六	一九四六	一九四六	一九四六
一九四七	一九四七	一九四七	一九四七	一九四七	一九四七
一九四八	一九四八	一九四八	一九四八	一九四八	一九四八
一九四九	一九四九	一九四九	一九四九	一九四九	一九四九
一九	一九	一九	一九	一九	一九
二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇
二一	二一	二一	二一	二一	二一
二二	二二	二二	二二	二二	二二
二三	二三	二三	二三	二三	二三
二四	二四	二四	二四	二四	二四
倉田秀雄	倉田秀雄	倉田秀雄	倉田秀雄	倉田秀雄	倉田秀雄
東条内閣総辞職 サイパン島全滅 神風特攻隊出撃 B29本土空襲	一月十六日午後十一時二十分空襲により学校の隣接地に爆弾が落下され 校舎民家が被爆 児童九名死亡 北桑田郡平屋村に集団疎開する 同年十月全員無事帰校す 原子爆弾投下 ポツダム宣言受諾 国際連合ユネスコ成立 占領軍の駐留(美術館・公会堂・植物園・丸紅など接收)	日本国憲法公布 当用漢字・かなづかい実施 民生委員設置	教育基本法・学校教育法の実施で京都市立修道小学校と改称 教育委員公選 神戸正雄第一回公選市長 祇園祭り山鉾巡行復活	修道育友会が発会する 京都市域拡張(中川村・小野郷村)	創立八十周年記念式典を行なう 京都市域拡張(雲ガ畑村他七村)